

強風・大雨に対する技術対策（畜産）

釧路農業改良普及センター

台風等による強風や大雨によって被害を受けた飼料作物のほ場や牛舎・パドックは、以下の点を参考に対応してください。

また、河川の増水は、降雨後にも数時間続きます。河川近くのほ場や貯蔵飼料、各種施設等の観察は、安全に十分留意しながら行ってください。

1 滞水および土砂流出に対する対策

- 1) 滞水している草地は、ほ場に入れるようになり次第、排水溝を掘るなど速やかに排水を行いましょう。
- 2) 経年草地で土砂が混入・流出したほ場は、ほ場の確認を行い、程度により追播や更新の検討を行いましょう。
新播草地で表土が流出し裸地化した部分が多いほ場では、イネ科牧草による追播種を早めを実施しましょう。

2 サイレージ用とうもろこし

- 1) 傾きが45度以下の場合は今後の生育に大きな支障はなく、それ以上の傾きでもある程度の回復が見込めますので、今後の生育を確認してください。
- 2) ほ場に滞水箇所があれば、溝を掘るなどして速やかに排水を行ってください。既存の排水設備(暗渠出口、明渠部分など)に詰まりはないか点検し排水路を確保しましょう。

3 貯蔵飼料の点検と管理

- 1) 降雨及び滞水によるロールベール被害は、次のようなものが予想されます。給与の際は飼料分析を実施して品質を確認し、品質不良のものは給与を避けましょう。
 - ア 滞水面から吸水したもの
 - イ ロールベールの上部及び側面から雨水が浸入したもの
 - ウ ア・イが複合したもの

- 2) 冠水したスタックサイロやバンカーサイロは、早期の排水に努めるとともに、給与にあたっては品質の変化に注意しましょう。またビニールの穴や破れ、被覆状況を点検し、修繕が必要な場合は早急に修繕を実施しましょう。

4 家畜管理および衛生管理

- 1) 冠水や土砂をかぶった畜舎、カーフハッチ等の設置場所では速やかに排水対策を実施し、乾燥を促進しましょう。また、水が引き次第、水洗いし消毒剤や石灰の散布、石灰塗布などを行いましょう。

処置後も当面はこまめな観察を行い、異常牛は速やかに獣医師の診察を受けましょう。

- 2) 停電などで搾乳が長時間できなかった場合は、搾乳開始後、前しぼりを実施して乳房炎の確認をしましょう。

また電気が復旧しない場合は、給水制限と同時に配合飼料の給与を控え、通電まで牛舎・処理室などへの出入りを最小限としてください。

5 その他の施設、周辺への対応

- 1) 大量の降雨により堆肥場・パドック等からの「れき汁」流出が懸念される場合は、溝や土留めなどによって防止策を実施しましょう。

今後も、湿度・温度共に高くなることが予想されます。
家畜のストレス、乳房炎や下痢症等の疾病増加、サシバエなど衛生害虫の発生対策のため、家畜周辺の乾燥促進と衛生管理に努めましょう。